

# 連携・協働のカ・タ・チ

令和2年4月27日発行 福島県教育庁会津教育事務所



## 地域に生きる、地域を支える

### ～部活動の「新しいカタチ」、東京都日野市立三沢中学校「地域活動部」～

東京都日野市立三沢中学校は、目指す学校像の一つとして「地域と連携した教育を推進する学校」を掲げており、地域と連携した様々な取組をしています。今回は、三沢中学校の「地域活動部」の取組について紹介します。

地域活動部は、顧問の教師も配置された正式の部活動で、次の三つの心得をモットーに、生徒たちが、様々な地域貢献の活動に取り組んでいます。

#### 【三沢中学校地域活動部 心得】

- 一、三沢地区を笑顔にする
- 一、地域の活性化に貢献する
- 一、地域のニーズに応える

三沢中学校の石村康代校長先生は、地域活動部の取組に対し、次のように話されています。

「ありがとう」と言われた時の喜びと達成感を子どもたちに感じてもらいたい。



下の写真は、昨年5月に被災された住宅の片付けや障がいのある方の生活補助活動の様子です。手伝いや地域住民との交流を通して、石村校長先生は、地域から中学生が必要とされていることを再認識されたとのこと。



【市障害福祉課職員及び地域住民との活動の打合せ】



【水に浸り重くなったふすまや畳の取り外し】



【地域の方から苦労していることを聞きとる生徒】



【地域の方から感謝の気持ちを伝えられる生徒】



### この実践から学ぶポイント！

「社会に開かれた教育課程」では、「よりよい学校づくりを通じてよりよい社会を創る、という理念が掲げられており、特に中学生段階からは、「地域貢献」の視点が、地域との連携・協働の目標・内容として求められます。（裏面：発達の段階における連携・協働の目標や内容（目安）参照）三沢中学校の地域活動部は、地域貢献に取り組む部活動の「新しいカタチ」です。

## (2) 発達の段階による連携・協働の目標や内容（目安）

学校は、これまでも地域と連携しながら教育活動に取り組んできました。これまでの取組を踏まえ、各学校の状況に応じて、何をどこまで担っていくか検討していくことが必要と考えます。

また、連携・協働活動はあくまでも手段であり、その目的は子どもたちへの教育活動の充実にあります。そのためにも、連携・協働活動の内容は、発達の段階を十分留意することが重要です。連携・協働活動の目標をきちんと捉えて企画することが大切です。次に示すように、発達の段階ごとに地域との連携を積み重ねることが、子どもたちの「生きる力」の基盤をつくっていくことにつながります。

